

濃尾平野における弥生後期～古墳前期の 炭素 14 年代測定と炭素安定同位体比

山本直人（名古屋大学大学院文学研究科）

赤塚次郎（愛知県埋蔵文化財センター）

はじめに

2002（平成 14）年度と 2003（平成 15）年度の 2 カ年間にわたって、濃尾平野の弥生時代後期～古墳時代前期の遺跡から出土した土器に付着した炭化物を試料に、AMS¹⁴C 年代測定を実施してきている。本稿では、測定にいたるまでの経緯と結果を報告するものである。

1. 2002（平成 14）年度の炭素 14 年代測定

名古屋大学には赤崎記念研究奨励事業という研究助成があり、平成 14 年度に山本が代表者となって「加速器炭素 14 年代測定法による東海地方の弥生・古墳時代の年代に関する研究」という課題で申請したところ採択され、交付をうけて測定を実施したものである。

土器付着炭化物の採取にあたっては、愛知県埋蔵文化財センター協力をえて、赤塚が 7 遺跡から 27 点の試料を採取した（表 1）。そのうちの朝日・八王子・廻間・月繩手の 4 遺 23 点について、岐阜県羽島市の（株）パレオ・ラボに AMS¹⁴C 年代測定を依頼した。

測定した結果については、研究奨励事業の成果報告書という形ですでに報告している（山本 2003）。しかしながら、成果報告書という性格から 20 部しか印刷しておらず、一般にはまったく配布されていない。また、2003（平成 15）年 6 月 8 日（日）に第 44 回名大祭考古学研究集会「AMS¹⁴C 年代測定法による尾張・三河の古墳出現期の年代—現状と課題を中心に—」を開催し、資料集において測定結果を公表している（山本・赤塚・小田・加納 2003）。この資料集も 200 部しか発行していない。そのため、再度、測定結果を報告し、一般に周知することを目的とした。

測定の結果は、表 2～5・8 のとおりである。表 2～5 は（株）パレオ・ラボから送付されてきた測定結果で、そのうちの表 2～4 は表のタイトルはかえているが、表そのものは赤崎記念研究奨励事業の成果報告書と同じである（山本 2003）。また、表 8 は名古屋大学年代測定総合研究センター助手の小田寛貴氏に暦年代較正のみを依頼したもので、表のタイトルをのぞいては、第 44 回名大祭考古学研究集会の資料集（山本・赤塚・小田・加納 2003）と同じである。

2. 2003（平成 15）年度の炭素 14 年代測定

昨年度に実施できなかった西上免・岩倉城下層・北道手の 3 遺跡 4 点について、名古屋大学年代総合研究センターに依頼して測定をおこなった。また、昨年度、（株）パレオ・ラボに測

定を依頼した 23 点のうち 19 点は、前処理においてアルカリ処理がほどこされていなかったため、アルカリ処理を実施したうえでの再測定を依頼した。これは、(株)パレオ・ラボがうけとった土器付着炭化物の半分を前処理に使用し、のこり半분을保存してあったために再測定が可能となったものである。しかしながら、19 点中 15 点はアルカリに溶解してしまい、実際に再測定がおこなえたのは 4 点のみであった。

測定の結果は、表 6・7・9・10 のとおりである。表 6・7 は (株)パレオ・ラボから送付されてきた測定結果であり、アルカリ未処理の前年の測定値をくらべると、大幅にずれており、かなりあたらしい測定値が提示されている。表 9・10 は、名古屋大学年代測定総合研究センターから送付されてきた測定結果を清書したものである。

3. 炭素 14 年代について

土器付着炭化物がアルカリに溶解しないで AMS¹⁴C 年代測定が実施できたのは、27 点のうちわずかに 12 点にしかすぎない。また、測定値のばらつきも大きく、以前からのべているように、このような状況のもとでは較正年代について議論することはできない。測定数を増加させることと日本列島産の樹木での較正曲線の作製が、今後の課題である。

4. 炭素安定同位体比について

同位体分別補正のために測定されたものである。2003 年度に (株)パレオ・ラボによって再測定された 4 点は、試料番号 4・5・12・21 である。それらの $\delta^{13}\text{C}$ と前年のアルカリ処理が実施されなかった状況での $\delta^{13}\text{C}$ をくらべてみると、ほとんどかわりがないことがわかる。このことによって、対象とした資料については、アルカリ処理の有無による $\delta^{13}\text{C}$ への影響はあまりないと判断される。このような条件のもとで 27 点の $\delta^{13}\text{C}$ をみても、 -10.1% ～ -15.0% は 6 点、 -15.1% ～ -20.0% は 7 点、 -20.1% ～ -25.0% は 14 点であり、半数が -20% 以下である。縄文土器に付着した炭化物では数百点にもおよぶ炭素 14 年代測定がされており、例外的なものを除外すると、それらの $\delta^{13}\text{C}$ はほとんど -25% 前後の値となっている。全国の縄文土器の $\delta^{13}\text{C}$ と濃尾平野の弥生土器・土師器のそれとを比較すると、差は歴然としている。

今回の付着炭化物は体部外面から採取したもので、薪などの燃料のススや煮こぼれた食物が付着したものであると考えられる。当初、弥生後期から古墳前期にかけての濃尾平野においては、C3 植物であるコメの生産力が向上し、コメを主食としていたため、 $\delta^{13}\text{C}$ は -25% 前後になるものと推測された。しかしながら、結果は予想と大きくくいちがうものとなった。炭素 14 年代をみるかぎりにおいては、特段に古い測定値がでていたものはなく、海産や淡水産の魚貝類のオコゲが付着したことによって起こるといふ海洋リザーバー効果の影響は考えにくい。炭化物では $\delta^{15}\text{N}$ を測定することができないので食物を明確に特定することはできないが、当該期の濃尾平野では $\delta^{13}\text{C}$ が -10% 前後となるヒエ・アワなどの C4 植物もかなり生産され、食用化されていたことが推察されてくる。この点も今後へのこされた検討課題であり、留意して測定をすすめていきたいと考えている。

表1 採取試料一覽表

番号	遺跡	登録番号他	器種	付着部位	時期	備考
1	西上免遺跡	E-159	S字甕B	体部外面	廻間Ⅱ-1	SZ01-C
2	朝日遺跡	130-1730	<字甕	体部外面	廻間Ⅰ式前半	
3	朝日遺跡	130-1738	<字甕	体部外面	廻間Ⅰ式前半	
4	朝日遺跡	110-1435	<字甕	体部外面	廻間Ⅰ式前半	
5	朝日遺跡	111-1450	有段口縁台付甕	体部外面	廻間Ⅰ式前半	
6	朝日遺跡	89-1138	<字甕(古宮)	体部外面	山中Ⅰ式	
7	朝日遺跡	119-1547	<字甕	体部外面	廻間Ⅰ式前半	
8	朝日遺跡	141-1886	<字甕	体部外面	廻間Ⅰ式後半	
9	朝日遺跡	61J-194	S字甕A新	体部外面	廻間Ⅰ-4~Ⅱ-1	
10	八王子遺跡	2080	<字甕(古宮)	体部外面	古宮Ⅱ式	SX101
11	八王子遺跡	2261	有段甕	体部外面	廻間Ⅰ-0	SK73
12	八王子遺跡	2176	<字甕(古宮)	体部外面	古宮Ⅱ式	SB22
13	八王子遺跡	2361	有段甕	体部外面	廻間Ⅰ-0	SK01
14	八王子遺跡	2413	有段甕	体部外面	廻間Ⅰ式前半	SK01上
15	八王子遺跡	2414	S字甕A	体部外面	廻間Ⅰ式前半	SK01上
16	八王子遺跡	2487	S字甕A	体部外面	廻間Ⅰ-4	SD07
17	八王子遺跡	SK93	S字甕A	体部外面	廻間Ⅱ-1	SK93
18	廻間遺跡	1195	S字甕C	体部外面	廻間Ⅲ式後半	SK20
19	廻間遺跡	664	S字甕B	体部外面	廻間Ⅱ式後半	SK50
20	八王子遺跡	NR01-2	<字甕	体部外面	宇田Ⅰ式	no.20
21	八王子遺跡	NR01-3	山陰系口縁S字	体部外面	松河戸Ⅰ前半	no.55
22	八王子遺跡	NR01-3	S字甕D古	体部外面	松河戸Ⅰ前半	no.224
23	月繩手遺跡	331	S字甕D古	体部外面	松河戸Ⅰ前半	SX02
24	月繩手遺跡	340	S字甕D古	体部外面	松河戸Ⅰ前半	SX02
25	岩倉城下層	1003	S字甕C新	体部外面	廻間Ⅲ式後半	
26	北道手遺跡	304	有段口縁甕	体部外面	廻間Ⅰ式中頃	SD87
27	北道手遺跡	193	<字甕	体部外面	廻間Ⅰ式後半	SK59

表2 測定結果一覧表1 (2002年度 パレオ・ラボ)

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代	
				暦年代較正值	1 σ 暦年代範囲
PLD-1994 (AMS)	土器付着物 No.2 130-1730 <字甕	-14.4	1905 ± 40	cal AD 85 cal AD 105 cal AD 120	cal AD 55 - 135 (94.4%)
PLD-1995 (AMS)	土器付着物 No.3 130-1738 <字甕	-14.4	1810 ± 35	cal AD 235	cal AD 135 - 200 (60.9%) cal AD 205 - 245 (39.1%)
PLD-1996 (AMS)	土器付着物 No.4 110-1435 <字甕	-23.8	1915 ± 40	cal AD 80	cal AD 50 - 130 (92.3%)
PLD-1997 (AMS)	土器付着物 No.5 111-1450 有段口縁台付甕	-25.5	1875 ± 40	cal AD 130	cal AD 80 - 140 (58.5%) cal AD 150 - 175 (23.4%) cal AD 190 - 210 (18.1%)
PLD-1998 (AMS)	土器付着物 No.6 89-1138 <字甕 (古宮)	-17.1	2035 ± 40	cal AD 40 cal AD 5	cal BC 90 - 70 (15.5%) cal BC 60 - cal AD 20 (84.5%)
PLD-1999 (AMS)	土器付着物 No.7 119-1547 <字甕	-21.4	1935 ± 40	cal AD 75	cal AD 25 - 40 (16.7%) cal AD 50 - 90 (52.7%) cal AD 100 - 125 (30.6%)
PLD-2000 (AMS)	土器付着物 No.8 141-1886 <字甕	-24.9	1915 ± 40	cal AD 80	cal AD 55 - 130 (94.8%)
PLD-2001 (AMS)	土器付着物 No.9 61J-194 S字甕A新	-25.3	1850 ± 35	cal AD 130	cal AD 125 - 220 (99.1%)

表3 測定結果一覧表2 (2002年度 パレオ・ラボ)

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代	
				暦年代較正值	1 σ 暦年代範囲
PLD-2002 (AMS)	土器付着物 No.10 SX101 <字甕(古宮) E-2080	-24.7	2020 ± 40	cal BC 40 cal BC 30 cal BC 20 cal BC 10 cal BC 0	cal BC 50 - cal AD 25 (92.8%)
PLD-2003 (AMS)	土器付着物 No.11 SK73 有段甕 E-2216	-20.9	2050 ± 40	cal BC 45	cal BC 110 - cal AD 0 (100%)
PLD-2004 (AMS)	土器付着物 No.12 SB22 <字甕(古宮) E-2176	-22.6	2075 ± 40	cal BC 90 cal BC 75 cal BC 60	cal BC 160 - 130 (25.0%) cal AD 120 - 45 (74.3%)
PLD-2005 (AMS)	土器付着物 No.13 SK01 有段甕 E-2361	-23.1	1915 ± 40	cal AD 80	cal AD 55 - 130 (92.4%)
PLD-2006 (AMS)	土器付着物 No.14 SK01上 有段甕 E-2413	-19.6	2000 ± 70	cal BC 15 cal AD 0	cal BC 65 - cal AD 80 (90.4%)
PLD-2007 (AMS)	土器付着物 No.15 SK01上 S字甕A E-2414	-25.4	1945 ± 40	cal AD 65	cal AD 20 - 85 (78.8%) cal AD 105 - 120 (16.0%)
PLD-2008 (AMS)	土器付着物 No.16 SD07 S字甕A E-2487	-10.9	2025 ± 40	cal BC 40 cal BC 30 cal BC 25 cal BC 10 cal BC 0	cal BC 55 - cal AD 25 (88.5%)
PLD-2009 (AMS)	土器付着物 No.17 SK93 S字甕A E-2631	-10.6	1980 ± 40	cal AD 25 cal AD 45	cal BC 20 - 10 (10.6%) cal BC 0 - cal AD 65 (82.3%)

表4 測定結果一覧表3 (2002年度 パレオ・ラボ)

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1 σ 暦年代範囲
PLD-2052 (AMS)	土器付着物 No.18 (廻間遺跡) SK20 S字甕C 1195	-25.6	2005 ± 40	cal BC 15 cal AD 0	cal BC 45 - cal AD 30 (86.0%) cal AD 40 - 55 (14.0%)
PLD-2053 (AMS)	土器付着物 No.19 (廻間遺跡) SB50 S字甕B 664	-11.2	1920 ± 40	cal AD 80	cal AD 50 - 130 (90.9%)
PLD-2054 (AMS)	土器付着物 No.20 (八王子遺跡) NR01-2層 <字甕 No.20	-15.8	1680 ± 40	cal AD 385	cal AD 265 - 275 (12.1%) cal AD 340 - 415 (87.9%)
PLD-2055 (AMS)	土器付着物 No.21 (八王子遺跡) NR01-3層 山陰系口縁S字甕 No.55	-23.4	1890 ± 40	cal AD 90 cal AD 100 cal AD 125	cal AD 65 - 135 (77.1%) cal AD 155 - 175 (12.0%) cal AD 195 - 210 (11.0%)
PLD-2056 (AMS)	土器付着物 No.22 (八王子遺跡) NR01-3層上 S字甕D古 No.224	-19.4	1970 ± 45	cal AD 30 cal AD 40 cal AD 50	cal AD 0 - 80 (88.1%)
PLD-2057 (AMS)	土器付着物 No.23 (月縄手遺跡) SX02 S字甕D古 E-331	-21.2	1900 ± 40	cal AD 85 cal AD 100 cal AD 125	cal AD 55 - 135 (85.9%)
PLD-2058 (AMS)	土器付着物 No.24 (月縄手遺跡) SX02 S字甕D古 E-340	-12.3	1805 ± 40	cal AD 235	cal AD 135 - 160 (22.7%) cal AD 170 - 200 (25.7%) cal AD 210 - 255 (43.1%)

表6 測定結果一覧表4 (2003年度 パレオ・ラボ 再測定分)

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1 σ 暦年代範囲
PLD-1996 (AMS)	土器付着物 No.4 (朝日遺跡) 110-1435 <字甕	-25.2	1,820 ± 25	cal AD 220	cal AD 135 - 160 (30.4%) cal AD 170 - 195 (30.8%) cal AD 210 - 235 (38.8%)
PLD-1997 (AMS)	土器付着物 No.5 (朝日遺跡) 111-1450 有段口縁台付甕	-26.2	1,780 ± 25	cal AD 240	cal AD 220 - 260 (54.1%) cal AD 280 - 290 (10.8%) cal AD 300 - 320 (35.1%)
PLD-2004 (AMS)	土器付着物 No.12 (八王子遺跡) SB22 <字甕(古宮) E-2176	-23.8	1,945 ± 25	cal AD 65	cal AD 25 - 45 (29.4%) cal AD 50 - 80 (66.4%)
PLD-2055 (AMS)	土器付着物 No.21 (八王子遺跡) NR01-3層 山陰系口縁S字甕 No.55	-25.0	1,670 ± 25	cal AD 395	cal AD 345 - 370 (35.4%) cal AD 380 - 415 (64.6%)

表5 処理結果一覧表1 (2002年度 パレオ・ラボ)

測定番号	試料データ	アルカリ処理濃度	処理前重量(mg)		処理後重量(mg)		処理収率(%) 炭素含有率(%)	¹⁴ C年代(BP)	校正暦年代 (1σ) (2σ)
			精製前重量(mg)	精製後の炭素重量(mg)	精製前重量(mg)	精製後の炭素重量(mg)			
PLD-1994	朝日遺跡 130-1730	-	7.8	5.6	71.8	1,905±40	cal AD 55 - 135		
			5.6	3.6	63.9				
PLD-1995	朝日遺跡 130-1738	-	12.8	7.7	60.2	1,810±35	cal AD 135 - 245		
			6.8	4.0	58.3				
PLD-1996	朝日遺跡 110-1435	-	48.2	37.0	76.8	1,915±40	cal AD 50 - 130		
			7.5	4.7	61.9				
PLD-1997	朝日遺跡 111-1450	-	52.0	37.6	72.3	1,875±40	cal AD 80 - 210		
			7.6	4.9	64.4				
PLD-1998	朝日遺跡 89-1138	-	26.8	17.4	64.9	2,035±40	cal BC 90 - cal AD 20		
			7.4	5.0	67.6				
PLD-1999	朝日遺跡 119-1547	-	48.1	11.3	23.5	1,935±40	cal AD 25 - 125		
			7.5	4.9	65.5				
PLD-2000	朝日遺跡 141-1886	-	28.0	17.3	61.8	1,915±40	cal AD 55 - 130		
			7.5	3.9	52.2				
PLD-2001	朝日遺跡 61J-194	-	55.1	33.3	60.4	1,850±35	cal AD 125 - 220		
			7.9	4.3	54.1				
PLD-2002	八王子遺跡 E-2080	-	40.0	17.5	17.5	2,020±40	cal BC 50 - cal AD 25		
			17.5	2.0	11.3				
PLD-2003	八王子遺跡 E-2261	-	88.0	26.4	30.0	2,050±40	cal BC 110 - cal AD 0		
			8.1	4.3	52.5				
PLD-2004	八王子遺跡 E-2176	-	170.0	68.8	40.5	2,075±40	cal BC 160 - 45		
			7.8	4.1	52.6				
PLD-2005	八王子遺跡 E-2361	-	85.0	19.7	23.2	1,915±40	cal AD 55 - 130		
			19.7	4.0	20.4				
PLD-2006	八王子遺跡 E-2413	-	205.0	61.0	29.8	2,000±40	cal BC 65 - cal AD 80		
			8.0	4.7	58.2				
PLD-2007	八王子遺跡 E-2414	-	186.0	73.1	39.3	1,945±40	cal AD 20 - 120		
			8.1	3.9	47.6				
PLD-2008	八王子遺跡 E-2487	-	91.0	22.1	24.3	2,025±40	cal BC 55 - cal AD 25		
			8.4	3.8	45.6				
PLD-2009	八王子遺跡 E-2631	-	30.0	11.8	39.3	1,980±40	cal BC 20 - cal AD 65		
			7.5	4.3	56.7				
PLD-2052	廻間遺跡 1195	-	40.0	20.0	50.0	2,005±40	cal BC 45 - cal AD 55		
			10.0	5.2	52.1				
PLD-2053	廻間遺跡 664	-	48.0	19.6	40.8	1,920±40	cal AD 50 - 130		
			10.1	5.7	56.4				
PLD-2054	八王子遺跡 No.20	1.0N	90.0	53.9	59.9	1,680±40	cal AD 265 - 415		
			8.9	5.4	60.4				
PLD-2055	八王子遺跡 No.55	-	47.0	29.0	61.7	1,890±40	cal AD 65 - 210		
			8.6	5.3	61.9				
PLD-2056	八王子遺跡 No.224	1.0N	290.0	132.9	45.8	1,970±45	cal BC 50 - cal AD 130		
			8.9	5.7	64.3				
PLD-2057	月縄手遺跡 E-331	1.0N	117.0	67.0	57.3	1,900±40	cal AD 55 - 135		
			8.8	5.5	62.4				
PLD-2058	月縄手遺跡 E-340	1.0N	96.0	40.1	41.8	1,805±40	cal AD 135 - 255		
			8.4	5.1	61.2				

表7 処理結果一覧表2 (2003年度 パレオ・ラボ 再測定分)

測定番号	試料データ	アルカリ処理濃度	処理前重量(mg)		処理後重量(mg)		処理収率(%) 炭素含有率(%)	¹⁴ C年代(BP)	校正暦年代 (1σ) (2σ)
			精製前重量(mg)	精製後の炭素重量(mg)	精製前重量(mg)	精製後の炭素重量(mg)			
PLD-1996	朝日遺跡 110-1435	0.1N	29.5	9.7	32.9	1,820±25	cal AD 135 - 235		
			6.6	4.1	62.1				
PLD-1997	朝日遺跡 111-1450	0.1N	30.0	8.2	27.3	1,780±25	cal AD 220 - 320		
			6.7	4.2	62.7				
PLD-2004	八王子遺跡 E-2176	0.1N	61.0	10.3	16.9	1,945±25	cal AD 25 - 80		
			10.3	3.2	31.2				
PLD-2055	八王子遺跡 No.55	1.0N	18.0	5.0	27.8	1,670±25	cal AD 345 - 415		
			5.0	2.6	52.0				

表 8 測定結果一覽表 5 (2002 年度)

測定 コード	No.	遺跡	登録番号 他	器種	附着部位	時期	備考	^{14}C 年代 [BP]	$\delta^{13}\text{C}$ [‰]	較正年代 [cal AD, BC] ¹⁾
PLD1994	2	朝日	130-1730	<字甕	体部外面	廻間 I 式前半		1903±38	-14.4	AD67(85, 103, 120)131
PLD1995	3	朝日	130-1738	<字甕	体部外面	廻間 I 式前半		1809±37	-14.4	AD133(236)253, 305(316)
PLD1996	4	朝日	110-1435	<字甕	体部外面	廻間 I 式前半		1914±41	-23.8	AD32(37, 54(81)129
PLD1997	5	朝日	111-1450	有段口縁台付甕	体部外面	廻間 I 式前半		1873±38	-25.5	AD81(129)179, 190(214)
PLD1998	6	朝日	89-1138	<字甕 (古宮)	体部外面	山中 I 式		2034±39	-17.1	BC89(78, 57(42, 7, 4)AD4, 10(19)
PLD1999	7	朝日	119-1547	<字甕	体部外面	廻間 I 式前半		1933±38	-21.4	AD27(42, 49(73)89, 99(125)
PLD2000	8	朝日	141-1886	<字甕	体部外面	廻間 I 式後半		1917±38	-24.9	AD32(37, 54(80)128
PLD2001	9	朝日	61J-194	S 字甕 A 新	体部外面	廻間 I-4 ~ II-1		1852±37	-25.3	AD89(99, 125(132)235
PLD2002	10	八王子	2080	<字甕 (古宮)	体部外面	古宮 II 式	SX101	2019±38	-24.7	BC49(38, 30, 21, 11, 1)AD26, 43(47)
PLD2003	11	八王子	2261	有段甕	体部外面	廻間 I-0	SK73	2050±40	-20.9	BC105(104, 95(46)35, 35(17, 13(AD2
PLD2004	12	八王子	2176	<字甕 (古宮)	体部外面	古宮 II 式	SB22	2076±40	-22.6	BC166(126, 124(89, 77, 57)42, 7(4
PLD2005	13	八王子	2361	有段甕	体部外面	廻間 I-0	SK01	1917±40	-23.1	AD32(38, 53(80)129
PLD2006	14	八王子	2413	有段甕	体部外面	廻間 I 式前半	SK01 上	2002±69	-19.6	BC88(80, 55(15, 15, AD2)74
PLD2007	15	八王子	2414	S 字甕 A	体部外面	廻間 I 式前半	SK01 上	1947±41	-25.4	AD4(8, 21(65)84, 103(119
PLD2008	16	八王子	2487	S 字甕 A	体部外面	廻間 I-4	SD07	2025±40	-10.9	BC86(83, 53(39, 28, 23, 9, 2)AD24, 44(46
PLD2009	17	八王子	SK93	S 字甕 A	体部外面	廻間 II-1	SK93	1981±40	-10.6	BC39(28, 22(10, 2(AD25, 44, 47)69
PLD2052	18	廻間	1195	S 字甕 C	体部外面	廻間 III 式後半	SK20	2003±42	-25.6	BC45(16, 15, AD2)31, 38(53
PLD2053	19	廻間	664	S 字甕 B	体部外面	廻間 II 式後半	SK50	1921±40	-11.2	AD30(39, 52(78)128
PLD2054	20	八王子	NR01-2	<字甕	体部外面	宇田 I 式	no. 20	1682±41	-15.8	AD262(277, 337(387)418
PLD2055	21	八王子	NR01-3	山陰系口縁 S 字	体部外面	松河戸 I 前半	no. 55	1892±40	-23.4	AD73(90, 99, 126)133
PLD2056	22	八王子	NR01-3	S 字甕 D 古	体部外面	松河戸 I 前半	no. 224	1969±44	-19.4	BC37(32, 20(12, 1(AD29, 41, 50)77
PLD2057	23	月繩手	331	S 字甕 D 古	体部外面	松河戸 I 前半	SX02	1898±41	-21.2	AD69(87, 101, 124)132
PLD2058	24	月繩手	340	S 字甕 D 古	体部外面	松河戸 I 前半	SX02	1805±39	-12.3	AD133(237)256, 303(317

1) 較正曲線 INTCAL98 (Stuiver et al. (1998) Radiocarbon 40, 1041-1083) による較正年代

参考文献

- 山本直人、2003、『加速器炭素 14 年代測定法による東海地方の弥生・古墳時代の年代に関する研究』
平成 14 年度赤崎記念研究奨励事業研究成果報告書、名古屋。
- 山本直人・赤塚次郎・加納俊介・小田寛貴、2003、『第 44 回名大祭考古学研究集会 AMS¹⁴C 年代測定法による尾張・三河の古墳出現期の年代』、名古屋。

表 9 測定結果一覧表 6 (2003 年度 名大年測センター)

番号	遺跡名	¹⁴ C 年 [BP]	$\delta^{13}\text{C}$ [‰]	$\delta^{13}\text{C}$ [‰] タンデ	較正年代 [cal BC, AD] 上段: 1 σ 下段: 2 σ	測定 code
1	西上免	1859 \pm 27	-16.4 \pm 0.1	-19 \pm 1	AD 90~AD220 AD 80~AD240	NUTA-2-6207
25	岩倉城	1730 \pm 28	未測定	-24 \pm 1	AD250~AD390 AD240~AD400	NUTA-2-6210
26	北道手	1969 \pm 28	未測定	-20 \pm 1	AD ~AD 75 BC 50~AD120	NUTA-2-6209
27	北道手	1862 \pm 27	-18.4 \pm 0.1	-18 \pm 1	AD 80~AD220 AD 80~AD240	NUTA-2-6208

表 10 処理結果一覧表 3 (2003 年度 名大年測センター)

番号	遺跡名	処理前重量 [mg] (W1)	処理後重量 [mg] (W2)	精製前重量 [mg] (W3)	精製後重量 [mg] (W4)	資料中炭素含有 率 (W4/W1*100)
1	西上免	22.1	—	—	1.85	8.39
25	岩倉城	6.5	—	—	1.30	20.00
26	北道手	37.5	—	—	1.04	2.77
27	北道手	76.0	—	—	19.06	25.08